



平成30年9月11日(火) 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
里川振興課	里川振興係	河尻・藤井	内線 2892、2912 直通 058-272-8455 FAX 058-278-2695

「全国GIAHSの集いinぎふ」について

国内の世界農業遺産認定地域の関係者が一堂に会し、その保全・活用・継承について情報交換を行い、広域的な連携の輪を広げるとともに、「長良川システム」の意義や流域の魅力をもPRするため、県と世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会（玉田 和浩 会長）の共催で「全国GIAHSの集いinぎふ」を下記のとおり開催します。

記

1 日時等

平成30年10月10日(水)・11日(木)

【第1日目(10月10日(水))】

○世界農業遺産広域連携推進会議 13:30~14:30
認定地域を有する10県の担当者が情報交換等を行う

○J-GIAHSネットワーク会議 13:30~14:30
認定地域の55市町村の担当者が情報交換等を行う

○世界農業遺産国際シンポジウム **一般参加行事** 15:00~17:00
世界農業遺産のセカンドステージをテーマとしたシンポジウム(別紙参照)

○GIAHS地域交流会 18:00~20:00
国内認定地域の食材を使った料理メニューなどを提供

【第2日目(10月11日(木))】

○「清流長良川の鮎」エクスカージョン 8:00~15:00
長良川流域の世界農業遺産関連施設等を巡るエクスカージョンを4コース実施

【10月10日(水)・11日(木)】

○世界農業遺産マルシェ 10:00~17:00
JR岐阜駅周辺において、認定地域の特産品等を販売

2 場所

第1日目 会議、シンポジウム・地域交流会：岐阜グランドホテル(岐阜市長良648)

第2日目 エクスカージョン：長良川流域4(岐阜、関、美濃、郡上)市内の各所

2日間 マルシェ：JR岐阜駅周辺

一般参加可能イベント

世界農業遺産国際シンポジウム ～GIAHSのセカンドステージを考える～

○日時 10月10日(水) 15:00～17:00

○場所 岐阜グランドホテル 西館B1F「ロイヤルシアター」

○出席者 国内認定地域関係者及び一般参加者等 約400名

○次第

- ・主催者あいさつ 知事
- ・来賓あいさつ
- ・基調講演
 - 演題 「これからのGIAHSの向かうべき方向(仮題)」
 - 講師 M・チャールズ・ボリコ 国連食糧農業機関(FAO)駐日連絡事務所長
- ・テーマ別セッション
 - ①テーマ「Communication(情報共有)」
 - 演題 「GIAHSの価値の共有と持続可能なツーリズムの展開(仮題)」
 - 講師 青木 辰司 東洋大学名誉教授/農林水産省世界農業遺産等専門家会議委員
 - ②テーマ「Collaboration(協働)」
 - 演題 「水産を対象としたGIAHSの事例と連携(仮題)」
 - 講師 八木 信行 東京大学大学院教授/農林水産省世界農業遺産等専門家会議委員
 - ③テーマ「Contribution(貢献)」
 - 演題 「フィリピン・イフガオ棚田との交流と里山マイスター制度の移転(仮題)」
 - 講師 中村 浩二 金沢大学客員教授/東アジア農業遺産(ERAHS)学会日本議長
- ・総括 八木 信行 東京大学大学院教授

世界農業遺産/Globally Important Agricultural Heritage Systems (GIAHS: ジアス)

- ・その土地の環境を生かした伝統的な農林水産業や、生物多様性が守られた土地利用、農村文化や農村景観などが一体となり、維持保全が図られている世界的に重要な地域を後世に引き継ぐことを目的として、2002年にFAOが創設。
- ・現在の認定地域は世界21か国52地域。国内は「清流長良川の鮎(2015.12認定)」のほか、石川県能登、新潟県佐渡、静岡県掛川周辺、熊本県阿蘇、大分県国東半島宇佐、和歌山県みなべ・田辺、宮崎県高千穂郷・椎葉山、宮城県大崎、静岡県わさび栽培、徳島県にし阿波、計11地域。

世界農業遺産国際シンポジウム 講師プロフィール

基調講演



M・チャールズ・ボリコ

国際連合食糧農業機関（FAO）駐日連絡事務所長

コンゴ民主共和国出身。1990年に来日し、名古屋大学大学院国際開発研究科で博士号取得。1年ほど同大学講師の後、1997年からFAOに勤務。ニューヨーク連絡事務所や本部勤務を経て、2013年から駐日連絡事務所初の外国人所長として着任。FAOでの勤務の傍ら客員教授として母国コンゴ民主共和国・カトリック大学で教鞭も執る。

テーマ別セッション



青木 辰司（あおき しんじ）

東洋大学名誉教授

農林水産省世界農業遺産等専門家会議委員

専門分野は農村社会学、環境社会学等。環境共生の社会学の視点から、日本型の都市農村関係構築について実践的な提案を展開。最近では政府の農泊政策の定着に向けてグリーン・ツーリズムの理念を踏まえた、持続可能なツーリズムの具現化のための、品質保証の制度化に向けた実践研究などに取り組む。



八木 信行（やぎ のぶゆき）

東京大学大学院農学生命科学研究科教授

農林水産省世界農業遺産等専門家会議委員

農林水産省入省後、外務省、水産庁勤務などを経て現職。専門は漁業経済学、海洋政策論。生物多様性と経済開発、経済効率性と地域社会、環境と貿易など、対立的になりがちな論点を分析し、人間と自然との関係について理解することを研究目標とする。



中村 浩二（なかむら こうじ）

金沢大学客員教授（名誉教授）

東アジア農業遺産学会（^エ ^ラ ^ス ERÄHS）日本議長

世界農業遺産「能登の里山里海」において活躍。能登里山里海マイスター育成プログラムを実施中。世界農業遺産「フィリピン・イフガオ棚田」との交流として、ノウハウを「イフガオ里山マイスター養成事業」に「移転」の取組みを実施。